

3月9日神戸港発着春の松山・釜山クルーズに乗船してきた。神戸から瀬戸内海を航行し、一日かけて釜山まで行き松山に寄港し神戸に戻ってくるコース。

全長が200m以下であるため夜間に瀬戸内海を航行できるので昼間に神戸から瀬戸内海の景色を通して堪能することができない。

本船は2009年にSEABOURN ODESSEYとして就航していたのを2024年12月にMITSUI OCEAN FUJIとしてデビューした。

全室スイートのラグジュアリー船であり、船内はゆったりした雰囲気である。

(乗船日当日)

部屋ごとに集合時間が決められており、待たずに乗船できることにはなっていたが、30分ほど待たされた。乗船口でノンアルコール飲料が渡され、すぐに救命ボート乗船集合場所で乗船カードを確認してもらい、各自部屋に行くことになる。

救命胴衣着用方法や集合場所確認は部屋のテレビで確認することが要請される。

乗船手続きが遅くなったため、船内案内ツアー開始後に参加することになった。

船内案内ツアーはレストラン富士やスパなどの公室を案内してもらえたので

以後デッキプラン片手に探し回ることはなかった。前船のアート作品が残っており、

中央エレベーターホールやスパにある彫刻はそのままであった。

部屋は外国船であったことからドアののぞき穴の高さが高くあり、ベッドの高さも高いのが難点。

スイート仕様でベッドルームとリビングの仕切りにカーテンがあり、独立したシャワー室とバスがある。ブラシ、歯ブラシのアミニティ類は引出に入っていた。

ボディソープやシャンプーはボトル式になっている。

ウォークローゼットは広く、引出も多くあり、長期クルーズ時でも収納に困らないと思われる。

ただ、ご愛敬にSeabournのマークが入ったハンガーがあった。

テーブルにスパークリングワイン1本とチョコレートスイーツが置かれていた。

デッキプランと絵葉書、メモ帳が置かれていた。メモ帳は船名はなくMITSUI OCEAN CRUISESと印刷されていた。

冷蔵庫にビール、お茶、ジンジャエール、炭酸水が入っており、毎日補充してもらえた。

17時に神戸港新港第四突堤から出航時の銅鑼や飲料はなしで静かに釜山に向けて出航。

ダイニングは有料レストラン以外のザ・レストラン富士は17時半から19時半まで

ビュッフェスタイルのテラスレストラン八葉は17時半から20時半まで開いており

この時間帯ならいつでも食べることができる。時間が決まっていると食事時間に合わせて行動することになるが柔軟に行動できることが良い点である。

初日は富士では和食が提供された。メニューは「にっぽん丸」と異なりA4サイズの

表紙カバーに差し込みメニューで持ち帰りができにくい方式になっていた。

なお、食事中のアルコールを含む飲料は乗船料に含まれている。

有料レストランの北斎ファインダイニングは予約制で17時半、18時、18時半からと

なっていた。乗船してすぐに予約すれば比較的取りやすいと事前に旅行社の方から聞いていたので航海の中日の予約を行った。

食後は20時15分(1回)からオーシャンステージに高座を設けて落語が演じられた。

(終日航海日)

夜中4時近くに来島海峡大橋を通過し、関門海峡通過の13時まで瀬戸内海の島々を眺めながら航海していく。船内イベントは30分刻みで多く用意されており、クルーズ・ディレクターの腕の見せ所であった。何とか教室の間に弦楽器の調べがあり、お茶を楽しみながらゆっくり過ごすことができる。

船内新聞があるためイベントを掛け持ちするには大変便利であった。

この日はフォーマルナイトでキャプテン主催のウエルカムパーティーが催された。

船内には専門の写真撮影がなく、パーティー開始前に自由にキャプテンとの撮影会が催された。

(釜山)

停泊地は釜山港国際旅客ターミナル2ですでにダイヤモンドプリンセスが停泊し、入国審査を行っていた。

また、元ぱしふいっく・びーなすのイースタン・ビーナスが停泊しているのを見ることができた。

釜山は以前バイキング・エデンで寄港観光しているので船内でゆっくり寛ぐことにした。

ただ、国際旅客ターミナルがどのような感じか見るために1時間ほど入国した。

今夜の夕食は予約しておいた北斎ファインダイニング。前船のThe Grillの内装はそのままであまり落ち着いた感じであった。料金は15000円でワインとペアリングであれば25000円、また食材を高級なものにすれば5000円追加となっていた。飲料は無料で提供されるのものがある。オンボードクレジットがあったためペアリングのコースを注文した。

ここは三國清三シェフ監修の料理が提供されている。実際の店に行ったことがないため、味などの違いはわからなかった。

16時出航で食事が18時であったことから揺れを心配したが、ほとんど感じなかった。出航時にアドラマジックシティが停泊していた。

(松山)

8時に入港。入国審査を受けたのち上陸。ここも数回訪れたので、自由散策。

三津の渡しがあることを知り、港から徒歩20分ほどで船着き場に到着。

深さ8mほどの入り江で幅が20mほどを乗船すれば運行する。橋の代わりに交通手段としており、無料であった。対岸に湊三嶋大明神社があった。

下船して徒歩で20分三津巖島神社があり、三津では祭事として有名であるようだ。

ここから伊予鉄三津駅からシャトルバスが港まで30分おきに出ているので乗車。

昼食を軽く摂って、アフタヌーンティーに備えた。

前方10デッキのオブザベーションバー36で事前予約制有料のアフタヌーンティーが催される。浦島太郎伝説に着想を得た和風アフタヌーンティー。

コンセプトは想像できたが、「和風」が気になる場所であった。

初めに冷茶三種類用意され、どの味が好みかを覚えておいて、後から温かいお茶として提供される。この間甘味が入った玉手箱が出され、ふたを開けると・・・・・・・・

中には抹茶のレアチーズケーキ、練り切り、玉子焼きサンド、落雁と塩昆布、柴漬けが

入っており、かなり凝った内容のものであった。

昼食をパスしても良いくらいの量があった。

夕食は最終日であり、洋食となっており、3種のメインから選択でき、スペシャルとして三國シェフ監修の1品も追加料金なしで選択も可能であった。

(神戸)

7時には神戸港関門を通過し、8時に着岸。

8時には部屋を開けるようになっていたため、食事に。

満船ではなかったので各公室は混雑なしに下船まで過ごすことができた。

ただ、乗船場所の新港第四突堤ではなく中突堤での下船であるため、土地勘がない方は迷われるかの知れなかった。JR神戸駅までシャトルバスが運行されていたが、長蛇の列になっていた。

翌日に神戸客船フェスタが開催されるため、アザマラ・パシュート、アマデア、飛鳥IIが新港第四突堤に停泊するため、中突堤しか空いているバースがなかったためであろう。

レストランサービスの点は飲み物がなくなれば「お代わりはいかがですか」、「他の飲み物にされますか」と常に気を配っていたのが印象的。カウンター式のレセプションでなく、座って対応する方式であった。



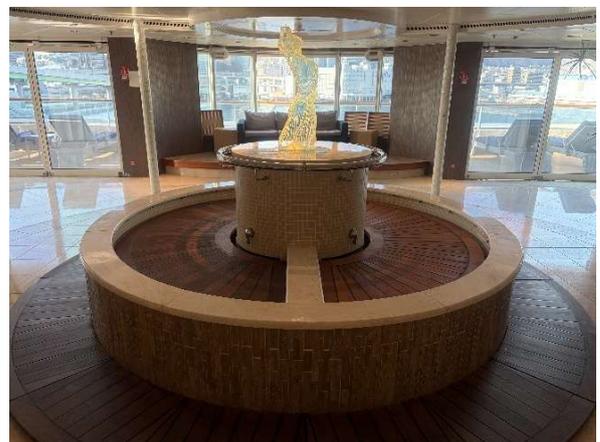
MITSU OCEAN FUJI



螺旋階段（下から）



キャビン



スパの中央



ザ・レストラン富士



富士 食事



北斎ファイン・ダイニング



北斎 食事



オブザベーションバー36



アフタヌーンティ



船中央のプール



中央エレベーターホールのふじ丸



松山三津の市営渡し船



釜山港 ダイヤモンド・プリンセス



釜山港 イースタン・ビーナス



釜山港 アドラ・マジック・シティ